

みやけの風

第200号(記念号)

平成16年(2004年)11月28日(日)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org



ありがとう!

第9回 三宅島島民 ふれあい集会

2004年11月28日(日)10:00~15:00
 港区立芝浦小学校・幼稚園

いよいよ、
本日開催!

ステージイベント

神着木遣太鼓・伊ヶ谷獅子舞
 東京都・三宅村からのメッセージ
 島民発表会 島民合唱団「アカコッコ」
 三宅島島民からの「感謝のメッセージ」
 三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 からの「応援メッセージ」

島民作品展 幼稚園1F

島民発表会(胡弓・大正琴) / 島民作品展
 三宅村高齢者支援センター作品展

体育館プログラム

三宅村役場相談窓口

三宅村役場では、来年2月の避難指示解除に向けて、「引越し」、「被災者生活再建支援法」、「都営住宅」に関する事等、その他についても、全庁体制で終日、広く相談を受け付けます!!

校庭および校舎内各コーナー

焼きくさや&あしたば料理(島民有志) / 私ライス&デザート(東京都司厨士協会) / 赤芽いものじっくりがし(三宅村商工会女性部) / つみれ汁(三宅八潮の会) / ポトフ(母の会) / おしるこ(三宅島郷友会) / かつと島しょうちゅう(島しょ郷友会連合会) / ルーライス(SeRV) / ふるさと汁(ふるさとの会) / のみものコナ(江東三宅島会支援ボランティアグループ) など食べ物テント18ブース
 ゲームコーナー・教育相談(三宅村立小学校) / 子育て広場・育児相談(三宅村立保育園) / 警察相談(警視庁三宅島警察署) / 年金・保険相談(三宅村・港社会保険事務所) / 法律税務総合相談(三宅島ホト法律家グループ) / 電気の相談(東京電力) / 健康相談(島しょ保健所三宅出張所・村保健福祉課) / ふれあいイベント(東京都生協連) / 竹とんぼ体験(沖電気・森永エール財団・国際竹とんぼ協会) / さをり織り体験 / 指圧(日本赤十字都支部) / ミリス作り(神奈川県立中央農業高校ワカデザイン部) / 手作り硝子夢あじさい(ダレ-) / 三宅ガラクジュリー(都立産業技術研究所) / 御焼やき(三宅島産業再生研究会)・火山灰ブリト(三宅島観光協会) / 三宅ハート会 / 山古志村への寄せ書きコーナー などイベントテント32ブース

みやけの風 200号記念号によせて

三宅島災害・東京ボランティア支援センター
事務局長 上原 泰男

2000年の9月、困難な避難生活を始めた三宅島島民の皆さんに、最初に提案した『島民電話帳』。多くの善意の人の手によって、幾つもの課題を克服して見事に完成し、島民の心と心を紡ぐ大切なものとなりました。

次いで情報を提供する役割を果たすため、300台のFAX機の提供を企業などの協力によって行い、その後、生活情報紙の発行を決め、そのタイトルを『みやけの風』とさせていただきます。今日まで4年数ヶ月、思いもよらず200号となりました。

粗末な紙面ではありますが、すべての想いが込められた『みやけの風』であったと思います。

今、帰島事業が本格化する中で、支援センターは明年、三宅島島内に『みやけの風の家』を設置することを構想しております。この『風の家』には、全国のボランティアが毎日待機しています。帰島する島の方々の暮らしの再建を、心を込めて支援する友情の家です。

支援センターは引き続き、様々な選択をする三宅島島民の皆さまと、共に歩み続けます。

三宅島島民の皆様へ

東京YMCA
総主事 新井 廣和

噴火から始まった避難生活も長くなり、その間、多くのご苦勞をされたものと思います。いよいよ帰島が始まります。皆様の生活にまた変化が訪れようとしています。是非、村での生活が一日も早く復興し、元通りの生活ができますようにと願っております。また、今後も隣人として引き続きお手伝いをさせていただきますと考えております。最後に皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

三宅島復興に向け、東京の生協は支援を続けます

東京都生活協同組合連合会
副会長理事 名和 三次保

4年ものながきに及んだ避難生活を続けてこられた島民のみなさん、ほんとうにご苦勞さまで。来年2月の帰島を前に、様々な思いの中でその準備をされておられることと思います。私たち東京の生協は、これまでの皆さんの避難生活に対し、ささやかですが支援を続けてまいりました。いよいよ帰島される皆さんに、東京の生協は支援センターと連携し、できる限りのお力になりたいと、支援準備を進めております。また、島にお帰りにならない皆さんに対しても、私たちはお役に立ちたいと考えております。

「みやけの風」200号発行に際し、支えてくださった愛読者のみなさま、原稿をお寄せいただいたみなさま、配布回覧にご協力いただいたみなさまに、心より敬意を表します。

みなさん、手を携えて、三宅島復興に向け歩んでまいりましょう。